

平成 15 年度 青年技術士協議会秋期研修会を開催

平成 15 年 11 月 21 日（金）に(独)北海道開発土木研究所 大講堂で開催した秋期研修会について報告します。

平成 15 年度の秋期研修会は、(株)アイ・アールジャパン 田口淳子氏をお招きして、「危機管理における広報の役割と事例からの教訓」と題したご講演をいただきました。

また、話題提供として、日本技術士会青年技術士懇談会・支部交流グループ 桜井裕一氏より、「全国の青年技術士の交流に向けて」のお話をいただきました。以下にその概要をご紹介します。

1. 講演「危機管理における広報の役割と事例からの教訓」(田口淳子氏)

・ PR の歴史と定義について

「PR」と聞くと私たちは通常、製品やサービスを宣伝するための一方的な広告と誤ってしまいがちですが、田口さんの言われる PR (Public Relations) は、組織への認知度・理解・信頼感を醸成するためのマネジメント機能であり、双方向のコミュニケーション活動で、コミュニケートの対象も、企業にとって対顧客、対地域社会、対従



業員、対株主、対メディア、対政府など様々なパブリックス間となります。

その PR が生まれたのは今から約 100 年前、アメリカのボストンで PR 会社の第 1 号が設立 (1900 年)されたときに始まり、以来、アメリカ政府が国民に対して、国策への理解や協力を促進するためのツールとして活用されたそうです。第 2 次世界大戦後は、企業の社会的責任や、政治経済のグローバル化に伴って、国境を越えた理解や信頼感を高める必要性が生じる中で、国際 PR に発展したということです。

・ 危機管理における広報の役割

緊急事態が起こったとき、正確な情報を速やかに伝達することが対応として必要ですが、緊急時にこのような対応ができるためには平常時から準備する必要があります。田口さんは、情報の収集・分析・評価、マスコミへの対応の仕方、ステークホルダーズ (組織の対応いかに直接・間接に精神的・経済的影響を受ける個人や組織などの利害関係者) への情報提供の仕方など広報の役割について説明してくださいました。平常時はシミュレーション演習、情報収集体制の確立、災害レベルごとのステークホルダーズの分析と情報伝達手段などを検討しておき、災害時には常にオープンな姿勢で、事実を早期に、頻繁に、みんなが理解できる言葉で発表し、発表後の報道内容の分析や評価、誤報への対応などメディアモニタリングを行う。そして事態収拾後は、緊急事態対応の記録をつけて事態の検証と信頼回復に努めるということが、危機管理における広報の役割ということです。

北海道では、平成 15 年 8 月に台風 10 号の来襲に伴う洪水被害が、9 月 26 日には平成 15 年度十勝沖地震が、同 28 日には苫小牧港の出光興産(株)北海道製油所のナフサタンク火災が発生しました。今から思うと、ステークホルダーズへの情報提供がきちんとなされていたのか、マスコミへの対応は、マスコミの報道は正確だったのか？など田口さんの言われる広報がどの程度、どのレベルで実施されていたのか非常に気になるところです。

・ 事例からの教訓

広報の失敗例 2 つ(JCO 臨界事故・米国三菱自動車製造の集団セクハラ訴訟)と成功例(アストラ USA セクハラ事件・参天製薬 目薬異物混入事件)を紹介していただきました。

例えば、JCO 臨界事故では事故通報の遅れと通報内容の誤りが関係市町の対応の遅れと 2 次被爆を引き起こしました。また情報の評価・共有化の欠如によって関係機関による対応に混乱が生じ、国が対策本部を設置したのは事故が発生してから、なんと約 11 時間も経過してからだったそうです。

この危機管理と広報のテーマについては、私たちにも非常に興味深い内容であったことから、今後田口さんにもご協力をいただいて、引き続き勉強会を続けていきたいと考えています。

2. 話題提供「全国の青年技術士の交流に向けて」(桜井裕一氏)

・ 日本技術士会青年技術士懇談会について

日本技術士会青年技術士懇談会は調査委員会の下部組織で、全国の 45 歳未満の技術士約 2000 名で構成され、活動のスローガンは「開かれた～Open 会員のための～Useful サービス活動～Service」ということです。桜井さんはその中で、支部交流 WG のリーダーで、他 WG のメンバー



でもあります。

活動事例、CAFE0-21 in INDONESIA への参加、日本各地区における青年技術士の活動について一通りご紹介いただきました。

青年技術者を主体とした活動は中四国を除くすべての地区にあるそうです。今後はこれまでに以上に、地域を越えた若手技術者の交流や活動の連携を進め、青年技術士の資質の向上、社会的活動の場と幅を広げていく予定となっており、その具体的展開方策は、日本技術士会青年技術士懇談会が作った YMIPEJ (Young members the institution of professional engineers) STRATEGIC PLAN のなかで、修習技術者育成や他国の組織との関係づくり、情報開示と広報の推進などを進めていくそうです。

北海道技術士センター青年技術士協議会では、平成 16 年度の日本技術士会全国大会で、分科会を受け持つことになっており、それを全国の青年技術者と交流する機会とすることも考えていくことになりそうです。

3. 交流会

北海道開発土木研究所内の食堂で行われた懇親会の様子です。青技協のメンバーと研修会に参加された技術者の皆さんとともに、田口さん、桜井さんを囲み、意見交換を行いました。



(文責：古屋 温美)